

独立行政法人国立青少年教育振興機構

国立那須甲子青少年自然の家

この夏が
君をかえる！

平成30年度 教育事業 地域力向上事業

なすかしの森 チャレンジキャンプ
2018

はじめに

国立那須甲子青少年自然の家では、新たな視点【『①地域のフィールドを最大限に活用した効果的なプログラム、②地域力及び地域教育力の更なる活用、③ボランティアの活用及び育成など』】から見直しを図り、今年度の「なすかしの森チャレンジキャンプ」の実施に至りました。

実施プログラムについては、公立青少年教育施設等の参考となるよう昨年度と同様、8泊9日の日程で実施いたしました。内容は、那須甲子のフィールドを中心に地域で活躍されている「にしごう体験隊」の協力の下、様々なスキルアップを行い2泊3日の那須縦走登山を活動のメインに据えました。また、参加者募集の範囲を県外へも拡大することで、県外の子供たちにも福島を自然を楽しんでもらう機会となるような活動に努めました。県内外の子供たちが寝食を共に活動しながら、自然や文化に触れること、プログラムの運営に地域の方々の力を得ることで、福島県の特色や地域の魅力をより感じてもらえたのではないかと考えています。また、プログラムを通じて共に様々な活動に挑戦していく過程で、「自分で考え行動する力、仲間に対する思いやりや助け合う心、身近な方々や社会に対する感謝の気持ち、忍耐力など、子供たち自身に身に付けてもらう」ことを意識しました。これについては、本文に記載されているキャンプアンケート調査を御覧頂ければ、事業の開始前に比べ、事業実施後に子供たちの潜在能力が向上していることがわかりました。更に、追跡調査においても優位な結果が表れている要因としては、学校や家庭という日常の生活環境を離れ、長期間子供たちが共同しつつ、地域の方々の支援の下で行う様々な体験活動が子供たちの成長に繋がったと分析しています。

このように、新たな歩みを始めた長期宿泊体験事業ですが、来年度に向けての課題（例えば、より教育的効果のある活動内容や安全管理上の課題解決を図ること、事業の成果を広く普及するために公立青少年教育施設や地域との密接な連携を図ることなど）に取り組み、より良い事業となるよう引き続き実施することとしています。

最後になりますが、今回の「なすかしの森チャレンジキャンプ」に多大な御支援を頂いた福島県教育委員会並びに株式会社ヨークベニマル様、大塚製菓株式会社様、コカ・コーライーストジャパン株式会社白河営業所様、イオン白河西郷店様、有限会社村上運動具店白河店様、有限会社あぶくま教育様に感謝申し上げます。また、事業実施に連携協働して頂いた「にしごう体験隊」並びに御協力頂いた地域の青少年教育指導者に感謝を申し上げますとともに、長期宿泊体験活動を試行されている青少年教育施設の皆様に本報告書が参考になればと願っています。

平成31年3月

独立行政法人国立青少年教育振興機構
国立那須甲子青少年自然の家

目次



はじめに

1 事業概要	1
2 事業内容	2
(1) 参加者	2
(2) 地域別人数内訳	2
(3) スタッフ名簿	3
(4) 事業運営体制	4
(5) スタッフ動向表	5
(6) サポート体制	6
(7) 事前調査及び実地踏査	6
(8) 情報発信	7
(9) 広報	8
(10) 協賛	8
(11) 事前説明会	9
(12) 個人携行品リスト	10
(13) メインキャンプ	11
(14) フォローアップキャンプ	15
3 キャンプアンケートによる結果と考察	18
4 参加者の感想から	19
5 保護者の感想から	20
6 成果と課題	21



1 事業概要

(1) 事業の趣旨

小学生がボランティアスタッフと9日間にわたって地域の自然や文化、人材等の特色を生かした様々な活動に集団で挑戦する過程で、自分で考えて行動する力、仲間に対する思いやりや助け合う心、身近な方々や社会に対する感謝の気持ち、忍耐力等を育てていく。また、地元福島県の地域教育力を最大限に生かし、郷土に目を向けられる心情を育てる。

(2) 期 日

【事前説明会】

平成30年 6月24日(日)・7月 8日(日) 2日のうちどちらかに参加

【メインキャンプ】

平成30年 7月28日(土)～ 8月 5日(日) 8泊9日

【フォローアップキャンプ】

平成31年 1月12日(土)～ 1月14日(月) 2泊3日

(3) 募集対象

心身ともに健康で、全日程参加できる小学5・6年生の男女(定員20名)

(4) 参加者負担経費 25,000円

内訳(食費、保険代、シーツ代、Tシャツ代、各種レンタル代)

(5) プログラムの概要

【メインキャンプ】

期 日	7/28	7/29	7/30	7/31	8/1	8/2	8/3	8/4	8/5
ステージ	Ⅰ「挑戦へ向けて」 アイスブレイク 基本技術の習得 登山練習(沢探検・野外冒険コース)			Ⅱ「山へのチャレンジ」 縦走登山準備 那須連山縦走登山			Ⅲ「挑戦を終えて」 ふりかえり 発表会		
主な活動	出合いのつどい 仲間作り	テント設 営・宿泊 野外炊事	登山練習 キャンパス キル習得	登山準備及び縦走登山 峠の茶屋→峰の茶屋→茶臼岳→三斗小屋温泉 →朝日岳→三本槍岳→坊主沼→甲子山→剣桂			登山用具片付け 別れのつどい 発表会(KP法)		
宿泊地	本 館	つどいの広場	本 館	本 館	三斗小屋 テントサイト	坊主沼避難小屋	本 館	本 館	
身に付けてほしい力	行動する力			忍耐力・思いやりや助け合う心			感謝の気持ち		

【フォローアップキャンプ】

期 日	1/12	1/13	1/14
ステージ	Ⅳ「再会」	Ⅴ「今の自分」	Ⅵ「未来へ」
主な活動	再会のつどい オリジナル風作り 再会パーティー(近況報告会)	雪上活動(雪上運動会、そり体験) キャンドルファイヤー	目標達成シート、10年後の自分 へ作文作成 別れのつどい
宿泊地	本 館	本 館	
身に付けてほしい力	感謝の気持ち	行動する力	感謝の気持ち・郷土愛

2 事業内容

(1) 参加者

	5年生	6年生	計
男	3	8	11
女	4	5	9
計	7	13	20

(2) 地域別人数内訳

福島県	白河市	4
	須賀川市	2
	いわき市	2
	矢吹町	2
	福島市	1
	本宮市	1
	石川町	1
	会津美里町	1
栃木県	小山市	1
	佐野市	1
	那須塩原市	1
茨城県	結城市	1
神奈川県	横浜市	1
新潟県	新発田市	1
計		20



(3) スタッフ名簿

No	職名等	氏 名	備 考
1	所長	津久井 賢	全体総括
2	次長	蓮見 直子	渉外・アドバイザー・プログラム補助
3	事業推進室長	大野 秀幸	渉外・アドバイザー・プログラム補助
4	企画指導専門職（主担当）	西村 孝幸	現場総括・ディレクター
5	企画指導専門職（副担当）	増田 直人	装備・物品管理・スキル習得
6	総務・管理係員（副担当）	谷仲 宏樹	食料・予算管理
7	事業推進係（副担当）	宗方 絵理	保健・看護 縦走登山補助
8	企画指導専門職	遠藤公太郎	プログラム補助
9	企画指導専門職	矢内 淳仁	プログラム補助・縦走登山補助
10	総務・管理係長	白岩 悟	縦走登山補助
11	総務・管理主任	矢吹 幸男	所バス送迎・縦走登山補助
12	登山等講師	高田 雅雄	那須甲子青少年自然の家 研修指導員
13	熊撃ちの話講師	大高 紀元	那須甲子青少年自然の家 研修指導員
14	沢登り・凧作り講師	にしごう体験隊	沢登り補助・凧作り補助
15	支援スタッフ（ボランティア）	長田 雅一	縦走登山補助
16	支援スタッフ（ボランティア）	渡邊 一雄	縦走登山補助
17	支援スタッフ（ボランティア）	渡邊 信良	桐蔭横浜大学
18	支援スタッフ（ボランティア）	設楽 遥	福島大学
19	支援スタッフ（ボランティア）	田中 智陽	新潟青陵大学



【所バスでの送迎】

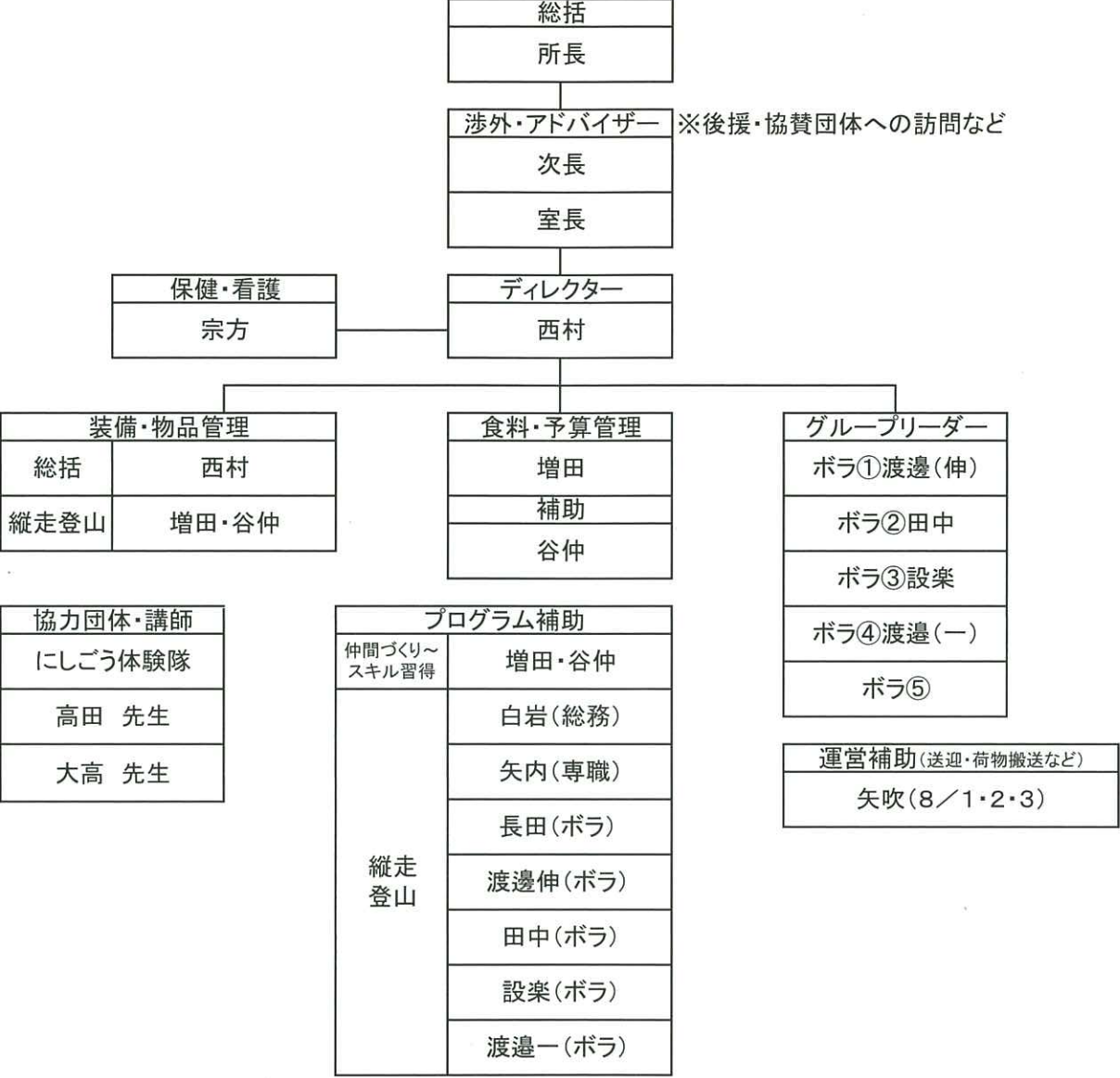


【沢登りの補助】



【熊撃ちの話】

(4) 事業運営体制



【縦走登山補助】



【学生ボランティア】

(5) スタッフ動向表

日数	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	8日目	9日目
日時	7月28日	7月29日	7月30日	7月31日	8月1日	8月2日	8月3日	8月4日	8月5日
	ステージⅠ			ステージⅡ			ステージⅢ		
プログラム	出会いのつどい パーティー	キャンプ スキル習得 テント泊	登山練習 (沢登り) キャンプ ファイヤー	山へのチャレンジ (那須縦走登山) 登山準備			全体まとめ パーティー	まとめ 別れのつどい	
所長	つどい参加		○		出発激励	△ (基本はなすかし、 緊急時合流)	到着激励	パーティー	つどい参加
次長	つどい参加				出発激励	△ (基本はなすかし、 緊急時合流)	到着激励	パーティー	つどい参加
室長					出発激励	△ (基本はなすかし、 緊急時合流)	到着激励		
西村・増田	○	○	○	○	○	○	○	○	○
谷仲・宗方	○	○	○	○	○	○	○	○	○
遠藤	つどい前～つどい後								つどい参加
矢内	つどい前～つどい後	○			長田さん(送迎)	8:00頃～峰の茶屋 弁当配達			つどい参加
矢吹					峠の茶屋送り	8:00頃～峰の茶屋 弁当配達	13:00頃 甲子山入口弁当配達		
白岩						8:00頃～峰の茶屋 弁当配達			
ボラ(長田)					前泊(送迎あり)	8:00頃～峰の茶屋 弁当配達			
ボラ(渡邊)					○19:00入り	8:01頃～峰の茶屋 弁当配達	○	○	○
ボラ(渡邊)				○20:00入り	○	○	○	○	○終了後 14:00送迎
ボラ(田中)	前日 ○21:21新幹線着	○	○	○	○	○	○	○	○終了後 14:00送迎
ボラ(設楽)				○19:12入り	○	○	○		
講師(高田先生)		富士山戻り	○	○	○	○	○	パーティー	つどい参加
職員協力 (空いていれば…)					出発激励		到着激励		
講演講師(夜プロ)	出会いの パーティー	大高 (熊撃ちの話)	キャンプ ファイヤー	高田 (登山について)				お別れ パーティー	
備考	所長・次長 つどい前に 保護者対応			渡邊、設楽:送迎 新白河高原口	長田さん(送迎) 新白河駅 (矢内)	ランクル(矢内) アルファード (矢吹)	ランクル(矢吹)	パーティー :所長、次長、 高田参加	所長・次長 つどい前に 保護者対応



【沢探検】



【茶臼岳山頂】

(6) サポート体制について

本事業は、8泊9日の長期キャンプのため、全日程を通して4名の職員が常時帯同し、そこに、応援職員が随時サポートする体制を整えた。今回の長期キャンプでは、参加者を大きく4グループ(5名)に分け、各グループには「リーダー・副リーダー・書記・食事」など、一人一役の役割をあてた。また、メインキャンプでは、ステージごとにボランティアを募集し、各活動の補助者として配置した。野外活動(キャンプスキル習得、縦走登山)では、職員、講師、ボランティアを各グループの前後に配置し、常に声をかけるなど参加者の安全確保に努めた。



(7) 事前調査及び実地踏査について

安全に事業を進めるために、事前に実地踏査を行った。第2ステージの縦走登山の実地踏査では、6月中旬に登山講師を含め職員スタッフ6名で行った。2日間を山中で過ごすため、登山道の危険箇所やテントの設営場所、緊急待機場所、飲み水の確保場所等の確認を中心に調査した。安全に事業を実施するためには、事前調査は必要不可欠であり、実地踏査することで想像以上の課題や問題点が見えてきた。



(8) 情報発信について

キャンプ中の情報発信には、当所のFacebookを活用した。初日から、日々の活動の様子を発信し、参加児童保護者、関係者に情報を提供した。

保護者からは、「キャンプ中の子供たちの様子が確認できて良かった」「元気な姿で活動しているので安心した」などの言葉をいただき、保護者の不安の軽減に効果があったとともに保護者とのつながりも大切にしながら事業を進めることができた。また、励ましの言葉や「いいね」の投稿が数多くあり、担当者及びボランティアの士気も高まった。



(9) 広報について

事業の広報については、チラシ（10,500枚）を作成し、広報計画に基づき広報活動を行った。募集定員が20名程度であることを踏まえ、当施設の利用実績を勘案し広報先の絞り込みを行い昨年度のチラシの作成枚数（30,000枚）から3分の1に抑え、広報費の削減に努めた。結果的に32名の応募があり、抽選により参加者を決定した。

【広報計画】

No.	方 法	備 考
1	チラシの直接配布	利用実績のある小学校（別紙参照）へ直接郵送し配布を依頼する。（1校につき50枚）
2	当施設HPへの掲載	
3	当施設Facebookへの掲載	
4	機構HPホットトピックスへの掲載	

【広報計画① 直接配布先】

大カテゴリ	小カテゴリ	配布形式	概算数
利用団体小学校	茨城県内 1校	直接郵送し配布を依頼	50
	宮城県内 4校	直接郵送し配布を依頼	200
	埼玉県内 4校	直接郵送し配布を依頼	200
	神奈川県内 10校	直接郵送し配布を依頼	500
	千葉県内 8校	直接郵送し配布を依頼	400
	東京都内 9校	直接郵送し配布を依頼	450
	栃木県内 2校	直接郵送し配布を依頼	100
	福島県内 168校	直接郵送し配布を依頼	8400
本部(オリセン)		設置・配架	100
予 備			100
合 計			10500

(10) 協賛について

本事業の趣旨に御理解を頂き、地元福島県の企業に協力を仰いでいる。各企業から、「子供たちの笑顔のために」と長期キャンプに必要な協賛品を数多く頂いた。事業では、様々な場面で協賛品を活用して有意義な活動を展開することができた。また、協賛品により参加費の軽減にもつながっている。

株式会社 ヨークベニマル	・レトルトご飯 ・レトルトカレー ・レトルト丼物 ・ペンネパスタ ・レトルトパスタソース ・缶詰 ・魚肉ソーセージ・野菜ジュース
大塚製薬株式会社	・スポーツ飲料
コカ・コーリーストジャパン株式会社 白河営業所	・スポーツ飲料
イオン白河西郷店	・飲料水
有限会社 村上運動具店 白河店	・帽子
有限会社 あぶくま教育	・ペン類 ・ノート ・探検バック ・模造紙 ・スケッチブック ・鉛筆、消しゴム ・付箋



(11) 事前説明会

- 日 時 平成30年 6月24日(日)、 7月8日(日)
13:00~16:00 10:00~12:00
- 場 所 キビタルーム、学習室2・3
- 内 容
- ① 主催者挨拶
 - ② スタッフ自己紹介(職員、講師)
 - ③ 参加者自己紹介
 - ④ 事業の趣旨、日程、生活についての説明
 - ⑤ 登山の心構えや準備物について
 - ⑥ 保護者、児童別活動
・保護者:二者面談、持ち物の確認、質疑応答
・児 童:アイスブレイク、横断幕づくり
 - ⑦ 閉会

参加者及び保護者に事業の基本方針やプログラム、安全対策等を理解してもらい、安心して参加できるよう具体的な資料を提示して説明会を行った。主な内容としては、事業の趣旨、日程、生活、個人携行品についての説明、担当職員、講師との顔合わせ、登山等野外活動の諸注意と装備品についてである。参加者同士も初めて出会う場であることから、自己紹介やアイスブレイクなどを行い、緊張感を和らげ仲間作りの足掛かりとした。また、事前説明会の中で、それぞれの家庭ごとに個別面談を行った。事業参加の理由や不安な点などを聞き、保護者の期待を把握するとともに健康面についても相談することで、参加者も運営側も安心できるものとなった。



(12) 個人携行品リスト

【衣類関係(野外での活動しやすいもの)】

チェックリスト	品 名	個 数	備 考
☐	下着(上下)	8	6日分セット+予備2日分
☐	靴下	8	くるぶしまで隠れるもの
☐	厚手の靴下	3	登山用(レンタル登山靴のためサイズ調整が必要)
☐	Tシャツ等	5	速乾性のもの(長袖Tシャツ等もあるとよい)
☐	長ズボン	2	汚れてもよいもの
☐	半ズボン(7分可)	2	汚れてもよいもの
☐	ねまき用ジャージ	2	運動服など
☐	防寒着	1	フリースなど
☐	雨具	1	上下セパレートのもの、野外活動で使用
☐	軍手	2	野外活動で使用(子どもの手にあった物)
☐	上履き	1	館内で使用
☐	はき慣れた靴	1	普段用、野外用

【日用品等】

☐	タオル	3	洗面、汗ふき用
☐	バスタオル	2	
☐	ハンカチ	適量	
☐	ティッシュ	適量	
☐	洗面用具	1式	入浴セット、歯ブラシ、歯磨き等
☐	洗濯ネット	1	数人ずつでの洗濯になるかもしれないため
☐	個人用救急用品	1式	常服薬、常備薬、絆創膏、かゆみ止め、防虫スプレー、日焼け止めなど
☐	筆記用具	1式	ボールペン、鉛筆、消しゴムなど
☐	ビニール袋	数枚	汚れ物入れなど

【その他用品】

☐	大きめのバッグ	1	荷物すべてを入れるもの
☐	リュック(10%程度)、ナップザック	1	アタック登山などで使用。入浴や移動等で使用
☐	腕時計	1	あると便利(購入する必要はありません)

【注意事項】

- ・荷物は、自分で準備し、すべてに名前を書いてください。
- ・野外活動が中心になるので、汚れてもよい服装を着用してください。
- ・下着、衣類、タオルのセットを3日分をビニール袋等にまとめて入れて用意してください。
- ・携帯電話、漫画、ゲーム、ジュース類、お菓子類は、持参しないでください。
- ・貴重品等は、各自個人の責任で管理してください。

第1ステージ 『挑戦へ向けて』

7月28日(土)・29日(日)・30日(月)

チームビルディング・登山キャンプスキル習得



なすかしの森チャレンジキャンプ20名の仲間とスタッフとの記念撮影です。今年度のスローガンは「この夏が君をかえる!」です。9日間で自分の課題を克服し、目標が達成できるように最終日まで、みんなで頑張るぞ!

縦走登山に向けて、テントの張り方、寝袋の使い方などのトレーニングの開始です。自分のことは自分で出来るように仲間と協力し合ってキャンプスキルを習得しています。



登山トレーニングでは、野外冒険ハイキングや沢登りに挑戦しました。当日は天気がよく、冷たい沢の水が気持ち良かったです。安全のために沢シューズとヘルメットを着用しました。



キャンプ中、毎日ふり返りを行いました。前半は、個人でのふり返り、後半ではグループ内でのふり返りを行いました。毎日、ふり返りを行うことで、明日の個人の目標、グループ内での目標が明確になりました。



【参加者のふり返りから】

- ☆初日は緊張していたけれど、みんなともすぐに仲良くなれてトレーニングも楽しかったです。
- ☆ふり返りでは、個人やグループでできなかったことを考え、明日につながる反省ができました。

第2ステージ 『山へのチャレンジ』

7月31日(火)・8月1日(水)・2日(木)・3日(金)

縦走登山準備・那須連山縦走登山

明日は、いよいよ縦走登山へ出発です。地元西郷村に住んでいる登山講師の高田先生から登山における心構えや準備物、注意点などお話を頂きました。



縦走登山1日目、第1目標の「茶臼岳」山頂まで登りました。初日なので、まだまだ余裕です。きれいな景色が目の前に広がりました!!

目的地までの道のりは、大変険しく、安全を確認しながらゆっくりと岩場やガレ場を登りました。担いだことのない重いザックを背負い、必死に登りました。



第2の目標だった「朝日岳」での記念撮影。みんなで声を掛け、励まし合いながら辿り着くことができました。

1日目の宿泊場所「三斗小屋温泉のテントサイト」に到着し、グループで協力してテントを張りました。



2日目の朝食は、縦走登山補助スタッフが、峰の茶屋まで届けてくれました。また、子供たちの体力面を考慮し、テントやシュラフなどを下ろしていただきました。

第3の目標だった「三本槍岳」第4の目標だった「須立山」での記念撮影！



2泊目の宿泊場所「坊主沼避難小屋」に到着しました。縦走登山の中では、一番長い(約10Km)行程でした。狭い場所でしたが、全員シュラフでぐっすり！



第5の目標だった「甲子山」での記念撮影！



下山途中、阿武隈川で沢遊びをしました！冷たい水は気持ちいい！



あと少しで、ゴールです。みんなで励まし合いながら、目指しました！



ゴール後の円陣です！職員や補助スタッフの出迎えがあり、歓喜に包まれました！



3日間の縦走登山では、目標だった5つの登頂に成功することができました。天候にも恵まれ、子供たちは弱音を吐きながらも励まし合い那須連山縦走登山(約28Km)を完歩しました！



【参加者のふり振り返りから】

☆3日間、荷物が重くてつらかったけど、仲間がいたので頑張れたと思います。
☆あきらめないでゴールできたのは、いろいろな人が支えてくれたからです。感謝しています。

第3ステージ 『挑戦を終えて』

8月4日(土)・5日(日)

活動のまとめ・別れのつどい・発表会



3日間の縦走登山を終えて、みんなで協力して、感謝の気持ちを込めながら片付けを行いました！

メインキャンプのまとめを行いました。このキャンプで頑張ったことや今までの自分から成長したことを作文にまとめました。



最終日の夜は、お別れパーティーを行いました。一人一人8日間の思い出を発表しました。

別れのつどいでは、所長から一人一人に修了書と記念品が手渡されました。また、このキャンプで学んだこと、成長したこと、楽しかったこと、辛かったこと、これからの目標について「紙芝居プレゼンテーション法」を活用し一人ずつ発表しました！



別れのつどいには、保護者の方々にも参加していただきました。たくましく成長した子供たちに感無量でした。また、5ヶ月後の再会を約束して、なすかしでの最高の夏！すばらしい日々を別れを告げました。



【参加者のふり振り返りから】

☆別れのつどいでは、自分が頑張ったことや成長したことを大きな声で発表することができました。
☆冬にまたみんなに会えることを楽しみにしています。9日間、ありがとうございました！

第4ステージ
『再会』

1月12日(土)

オリジナル凧作り・再会パーティー・近況報告会

メインキャンプ以来、5ヶ月ぶりの再会です。20名全員が参加して、久しぶりの再会を喜びました。みんな心身共に一回り大きくなったように感じました。



地元西郷村で活躍されている「にしごう体験隊」のみなさんを招き、オリジナルの凧作りを行いました。竹から切り出した竹ひごと障子紙を使い、初めて凧を作りました。

再会パーティーでは、メインキャンプの活動をまとめた映像を見ながら、たくさんの思い出を語りました。また、夏を終えてからの生活の変化や学校や地域での活躍などを発表する近況報告会を行いました。



【参加者のふり振り返りから】

☆久しぶりにみんなに会ったので、うれしかったです。登山のつらかったことを思い出しました。

☆近況報告会の発表では、自分ができるようになったことを大きな声で発表できました。

第5ステージ
『今の自分』

1月13日(日)

雪上運動会・オリジナル凧上げ大会・キャンドルファイヤー



雪のフィールドでチーム対抗の雪上運動会を行いました。初めて雪に触れる参加者もいて、みんなで楽しく活動しました。また、チューブやエアボードを体験するなどニュースポーツにも親しみました。



1日目に作ったオリジナルの凧を上げました。風がなくあまり飛ばなかったのですが、初めて自分で作った凧はフォローアップキャンプのおみやげになりました。



夜のプログラムはキャンドルファイヤーを行いました。グループ対抗でゲームを行い、楽しく盛り上がりしました。終盤では、これから自分が頑張りたいこと将来の目標について発表しました。

【参加者のふり振り返りから】

☆運動会は、チームで協力して頑張りました。チューブとエアボードは、めっちゃ楽しかったです。

☆初めて、真剣に自分の将来について考え、発表しました。少しはずかしかったです。

第6ステージ 『未来へ』

1月14日(月)

未来の自分を考える(10年後の自分へ)・別れのつどい



最終日は「未来へ」というテーマのもと、「将来のなりたい自分」について目標達成シート(マンダラチャート)を使い考えました。将来の目標を達成するために「何を頑張ればいいのか」「何が必要なのか」など、チャレンジキャンプを通して学んだこと感じたことをもとに考え、みんなの前で発表しました。

夏のメインキャンプから冬のフォローアップキャンプまで、みんなと一緒に活動しサポートしてくれたボランティアのお兄さん、お姉さんとのお別れです。お世話になりました！



最後の別れのつどいでは、所長から「これから生き抜くために何が必要なのか」というお話を頂きました。自分の将来の目標が達成したときに、もう一度集まろうという約束をして、仲間とお別れをしました。「なすかしの森チャレンジキャンプ」で学んだことを生かして、立派な大人に成長してくれることを期待しています。

【参加者のふり振り返りから】

- ☆目標達成シートは、少し難しかったけれど将来の自分について、楽しく考えることができました。
- ☆ボランティアのジャイ、はる、えりつん。今までサポートしてくれてありがとうございました。
- ☆将来、自分の目標を達成できるかどうか不安ですが、これから一生懸命頑張りたいと思います！！

3 キャンプアンケートによる結果と考察

なすかしの森チャレンジキャンプでは、様々な体験活動を経験することによる心理的影響を明らかにすることを目的として、参加児童を対象に児童用情動知能尺度(EQSC)を用いて調査を行った。調査は、事前【事業開始日】(pre)、事後【事業最終日】(post)、追跡【3ヶ月後】(post2)の3回の質問紙法で測定を実施した。

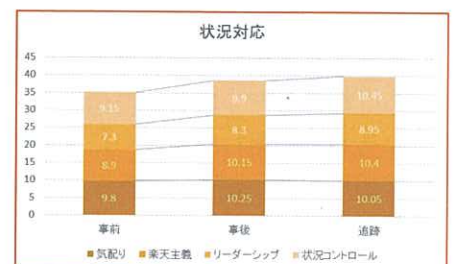
児童用情動知能尺度(EQSC)計38項目(36項目+チェック2項目)

領域	対応因子	下位因子	項目文
自己対応	自己洞察	1. 自己洞察	1. 自分が思っていることや感じていることがいつでもわかる
		2. 自己洞察	2. 自分の気持ちや、変化するのがわかる
	自己動機づけ	3. 自己動機づけ	3. 自分の気持ちを言葉で表すことができる
		4. 自己動機づけ	4. 自分でやるうと思ったり始めたことは、続けるいきたい
自己コントロール	3. 目標追求	5. 目標追求	5. 一度やり始めたことは、最後までやり通したい
		6. 目標追求	6. すぐにできなくても、大切なことは、やり続けるようにしている
	4. 自制心	7. 自制心	7. 自分でやると決めたことは、やりとげるようにしている
		8. 自制心	8. やると決めたことを、すぐにやめてしまうのはよくないことだと思う
対人対応	5. 共感性	9. 共感性	9. 目標のためならば、どんなに大変でも、やりぬく気持ちでいる
		10. 共感性	10. 自分の気持ちだけでなく、場面を考えて行動している
	6. 愛他心	11. 愛他心	11. 休み時間と授業時間の両方の切りかえができる
		12. 愛他心	12. いやなことがあっても、友達にやっあたりしない
対人コントロール	7. 協力	13. 協力	13. 友達が嫌がることをしてあげたくない
		14. 協力	14. どうすれば友達に嫌んでももらえぬかを考えたい
	8. 人材活用力	15. 人材活用力	15. 困っている友達をいたら、どうしたのか聞いてあげたいと思う
		16. 人材活用力	16. 友達が元気がないときには、はげましてあげたいと思う
状況対応	9. 気配り	17. 気配り	17. 友達が嫌がることは言わない
		18. 気配り	18. 困っている人を見ると、何とかしてあげたいと思う
	10. 楽天主義	19. 楽天主義	19. だれにでも、嫌いで事を言ってしまうことがある
		20. 楽天主義	20. みんなのためなら、いやなことでもやろうと思う
状況コントロール	11. リーダーシップ	21. リーダーシップ	21. 同じ友達とだけでなく、いろいろな友達と遊んでいる
		22. リーダーシップ	22. 友達に手伝いを頼むことができる
	12. 状況コントロール	23. 状況コントロール	23. けんかを止めたり、仲直りをさせたりしたことがある
		24. 状況コントロール	24. 初めに会った人も、すぐに友達になる

チェック項目①: 友達が嫌がることだけは、したくない
チェック項目②: 人の話は、しっかりと聞いた方がよいと思う

参加者(有効回答数)が少ないこともあり、データの信憑性が低いことが懸念されるが、pre-postの結果を見ると、すべての項目で向上していることがわかる。特に下位因子の「自己洞察」「自己動機づけ」「目標追求」「自制心」「共感性」「愛他心」「人材活用力」「楽天主義」の項目で有意に高い値($P<0.5$)を示した。また、post-post2の結果では、「対人対応」で低下しているが、「自己対応」及び「状況対応」で向上が見られた。しかし、あまり有意な差はみられなかった。

領域別に見ると、「自己の心の働きについて知り、行動を支え、効果的な行動をとる能力(自己対応)」において統計的に有意に向上した。メインキャンプでは、プログラムを通じて様々な活動に挑戦していく過程で、「自分で考えて行動する力」を意識させて活動してきた。また、フォローアップキャンプでは、自分の将来について考える活動を通し、これからの自分に対しての目標をもち、未来に向かって頑張ろうとする態度を育てることをねらいとして活動してきた。このことから、全体を通して、自主的に活動する場面や状況に合わせて行動する機会が多かったことが「自己対応」「状況対応」の向上に好影響を与えたと推察できる。



4 参加者の感想から

チャレンジキャンプで縦走登山を経験し、何事にもあきらめず取り組めるようになったと思います。まず、普段の生活では朝早く起きられるようになりました。また、キャンプの目標であった「班をまとめる」という力が身に付いたと思います。学校でもみんなの意見を聞きながらまとめたり声をかけたりできるようになりました。これからも目標をもってあきらめずチャレンジしていきたいと思います。

チャレンジキャンプに参加して、自分が変わったことが3つあります。1つ目は、「挑戦する気持ち」です。学校の行事で音楽会の司会にチャレンジしました。2つ目は、「あきらめない心」です。陸上大会のリレー種目で決勝まで進み、途中負けていたけれど最後まであきらめずにバトンをつなげることができました。3つ目は、「向上する気持ち」です。私は算数が苦手でテストがなかなか合格できませんでした。けれど、再テストを何度も受けて満点で合格することができました。これからも、自分自身がどんどん変われるように頑張っていきたいと思います。

チャレンジキャンプが終わってからの僕は、「何事にもチャレンジする」ということを意識するようになりました。夏のキャンプは、初めてのことでばかりで本当にチャレンジでした。縦走登山では、重い荷物を背負いながら歩き、初めてごはんをつくりみんなでテントに泊まりました。キャンプ中は、楽しいことも多かったけど、つらいこともたくさんありいい経験になったと思います。今では、家で夜ごはんの準備やお風呂掃除を毎日やっています。学校では、人前で発表することが苦手だったけれど、進んで発表することができるようになりました。また、体力も去年よりも倍以上の力がつきました。5ヶ月経って思うことは、「なすかしの森チャレンジキャンプ」は、自分を成長させてくれたのだということです。

僕は、もともとチャレンジすることが好きですが、チャレンジキャンプに参加してますますいろいろなことにチャレンジできるようになりました。学校の運動会では、応援団の団長になり大きな声を出してみんなをまとめました。また、文化祭では、オルガン演奏に立候補して上手に弾くことができました。他にもこれから中学受験にチャレンジしようと思っています。こんなチャレンジ大好きな僕を作ってくれたのは、「なすかしの森チャレンジキャンプ」だと思います。人生で最高の思い出です。

チャレンジキャンプが終わってからの生活は、自分でも変わった気がします。人前で発表することが苦手で自分の意見もはっきりと言えなかったのですが、夏休みが終わって学校生活が始まると授業中に発表することが多くなりました。また、話し合いでも自分の意見を言えるようになるなど、自分に自信を持てるようになりました。そして、周りの人にも「いきいきしているね」と言われるようになりました。ここまで、私が変わったのは、チャレンジキャンプに参加したからだだと思います。中でも縦走登山では、自分が頑張っただけでなく、スタッフさんや仲間がいたからです。とても感謝しています。

5 保護者の感想から

キャンプを終えた直後は、どちらかというと大変だったことや辛かったことを話すのが多くありました。でも、時間が経つにつれ「また、登山に行きたい」と言うようになりました。重い荷物を自分で持ち、仲間と助け合って縦走登山を最後までやりきることができたのが自信につながっていると思います。同じ学校の友達同士では、経験できなかったことをたくさん経験することができました。親としてもこんなに長い期間会えない、連絡も取れないという経験が今までなかったので、一緒に生活できるありがたみをととても感じました。本人の希望で参加をし、最初は不安が大きかったのですが、親ではできない経験をさせていただきとても感謝しております。

チャレンジキャンプに参加させ、本当に良かったと思っています。9日間という長い時間離れて生活することで、子どもの自立心を養えただけでなく親が子離れすることができたと感じています。本人は、学校生活において周囲に認められることが多いのですが、それと同様に受け入れがたい事も多く注意され目をつけられる事が多々ありました。そのため、学校の先生の話は素直に受け入れることができず距離をとるようになっていました。その様子に親もどう対応してよいか悩んでいた時期にキャンプに参加でき、本人の中で大人（先生）という存在が信頼できる人になったような感じがします。那須甲子のスタッフに出会えたことは本人の人生を変えるほど貴重なものになりました。2学期からは、問題行動（トラブル）が減り、認められることの方が多くなったようです。親としても本来の良さを信じ、見守っていく覚悟もできました。まだまだ成長途中で悩み失敗することが多いですが、このキャンプを経験したことで、「自分の力でやり遂げた」という子どもの可能性を信じて大丈夫だという確信がもてました。スタッフの方には感謝しかありません。どうか、この事業がこれからも続いてほしいと願っています。

チャレンジキャンプに参加してからは、それまで自分一人ではできなかった準備もできるようになり、臆病であったにもかかわらず新しいことにもチャレンジできるようになったと感じています。昨年、発達障害と診断されて以来、将来に対する一抹の不安がありました。できないことをなんとかやらせることよりも、本人が興味をもちやりたいと思うことの中から、少しずつでもできることが増えて成長につながる良い機会だと感じました。そのための貴重な一歩だったと考えています。この体験の中から生まれた自信を誇りに思い、歩んでほしいと願っています。

キャンプが終わった今でも、山の話が出ると縦走登山の体験を語ったりしています。本人にとって本当の宝物になったようです。これからの人生の中で、困難な出来事があっても最後までやり遂げる事と思います。これからもこの事業をずっと続けてほしいです。未来を担う子供たちが光り輝く姿は、とてもうれしく思います。本当にありがとうございました。

夏のキャンプが終了して、何事にも積極的に立候補し、最後まで堂々と真剣にやり遂げる姿にこのキャンプに参加させた経験が大いに活かしていることを感じました。縦走登山で達成感を存分に味わったようですが、この経験をこれからの人生の中で、どんな方向に進んでいくのか目標を定め、その目標に向かって強い気持ちでチャレンジしてほしいです。別れのつどいの発表では、「笑顔でチャレンジ」を学んだと話していましたが、これからの人生の道しるべとして忘れないでいてほしいと思います。

6 成果と課題

○成果

- ・昨年度から事業期間を1週間（8泊9日）に短縮したが、参加保護者からは、「1週間であれば参加しやすかった」「1週間程度なら心配はない」などの意見が多数あり、日程的には比較的参加しやすい日程であったと考える。また、公立の社会教育施設でも参考になる（日程、人員、プログラム）事業内容であったと考えられる。
- ・9日間ということで、当施設のフィールドを十分に生かしたプログラムを取り入れた。那須連山縦走登山（2泊3日）をメインのプログラムとして、キャンプスキルや事前の準備の時間を十分に確保し、プログラムを展開することができた。
- ・地域の人材、組織を生かしたプログラム（沢登りのサポート、登山の話、熊撃ちの話、凧作り体験）を組み込むことで、地域力や地域教育力を生かしたプログラムを展開することができた。また、子供たちの安全管理や深い学びができたと考えられる。
- ・運営面では、学生を中心にボランティア募集を行った。参加の条件については、全ステージでの参加は難しいと思われたので、参加可能なステージに協力してもらうように呼びかけた。メインプログラムの縦走登山を中心に3名の学生を確保することができ、子供たちと年齢が近いボランティアは、子供たちと親密に関わり、このキャンプの大きな原動力となった。学生の他にも登山中の補給部隊にもボランティアを活用したり、危険箇所に配置したりすることにより、大きな怪我や事故なく安全にプログラムを実施することができた。
- ・地元の企業から、たくさんの協賛物資をいただいたことで、登山活動やその他のプログラムで活用したり「チームチャレキャン」の意識を高めたりするなど様々な活動を充実することができた。施設と地域が一体となって子供たちを育てるという意識が非常に大切であると感じた。
- ・8泊9日間をともに乗り越えた仲間たちの絆は、一生心の中に息づいているかけがえのない宝物だと思われる。また、フォローアップキャンプでは、自分の将来や未来について真剣に考える活動をメインにしたので、このキャンプを経験した子供たちが今後どのように成長していくのが楽しみである。



●課題

- ・次年度も公立の社会教育施設へのモデルとなる事業として、さらに地域の人材、組織等を活用するプログラムの実践をしていくとともに、安全で有効なプログラムを広く紹介できるものとする。
- ・各種メディアを効果的に活用し、体験活動の素晴らしさや大切さ、地域の魅力などを伝えていくこと。
- ・学生ボランティアの確保のために、実施時期を検討していくこと。

なすかしの森 チャレンジキャンプ

主催／独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立那須甲子青少年自然の家

後援／福島県教育委員会

福島テレビ

福島中央テレビ

福島放送

テレビユー福島

ラジオ福島

ふくしまFM

福島民報社

福島民友社

協賛／株式会社ヨークベニマル

大塚製薬株式会社

コカ・コーライーストジャパン株式会社 白河営業所

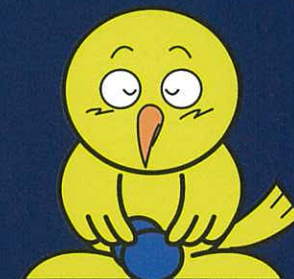
イオン白河西郷店

有限会社 村上運動具店 白河店

有限会社 あぶくま教育

協力／にしごう体験隊

三斗小屋温泉 大黒屋



平成30年度 教育事業 地域力向上事業

なすかしの森 チャレンジキャンプ 「この夏が君をかえる！」

●発行 日／平成31年3月

●編集・発行者／独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立那須甲子青少年自然の家

〒961-8071 福島県西白河郡西郷村大字真船字村火 6-1

TEL：0248-36-2331 FAX：0248-36-2150

●印 刷／ふじ印刷株式会社



Challenge Camp

- Nasukashi 2010 -